

## 令和7年度神奈川県母子保健対策検討委員会 議事録（案）

開催日時 令和8年2月3日（火）18:30～19:30

開催方法 オンライン

出席委員（学識経験者委員）

衛藤隆（委員長）、福島富士子、森明子

（関係団体代表委員）

相原雄幸、青木茂、和泉俊一郎、小竹伊津子（副委員長）

（関係行政機関）

奥津 亮一、柴田 元子

### ○委員長・副委員長の選出

#### 【神奈川県事務局】

今回の委員会は新たな期の最初の委員会ですので、「神奈川県母子保健対策検討委員会設置運営要領」第4条第1項及び第2項に基づき、委員長・副委員長の選出を行います。

ここで、事務局からの提案でございますが、委員長は前期から引き続き学識経験者委員の衛藤委員に、副委員長は、前期は神奈川県医師会の古井理事にお願いしておりましたので、同じく神奈川県医師会理事の小竹委員にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

異議がないようですので、衛藤委員、小竹委員、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、次第に基づき議事に入ります。ここからの進行は、衛藤委員長にお願いいたします。

### ○議題 神奈川県内の母子保健事業の状況について（報告）

#### 【神奈川県事務局】

資料に基づき

○成育医療等基本方針に基づく計画の推進

○乳幼児健康診査

○妊婦健康診査

○妊産婦のメンタルヘルスに関するネットワーク構築事業を説明。

#### 【衛藤委員長】

ただいま事務局より4項目についてご報告をいただきましたが、これにつきましてご意見やご質問があればお願いいたします。

#### 【相原委員】

乳幼児健診に関して、1か月児と5歳児の健診が始まっているところですが、1か月児健診はほとんど問題なく実施できていると理解していたのですが、データを見ると6か所ぐらいまだ実施できそうもない、しないというところがあるようですが、そ

の原因、理由が分かれば教えてください。

**【神奈川県事務局】**

「実施予定なし」と回答している自治体に内容をお伺いしますと、出産した医療機関で受診ができているということ把握されていたり、あるいは、今の段階では1か月健診の補助するための予算の確保が難しいといった理由が聞かれております。

**【相原委員】**

そういう意味では、1か月健診で、妊産婦の状況を把握するといった新たな項目等がきていたと思いますが、そういうことは、少なくともシステムには乗らないけれどやっているという認識なのでしょうか。

**【神奈川県事務局】**

正確な1か月健診の受診率というのは、今の段階では市町村も把握できていないと思いますが、その後の母子保健事業の中で、新生児訪問や3か月健診とか、いろいろな場面で保護者の方にお会いする中で、母子手帳等を見る中で、1か月健診の受診については、かなり多くの方が受診できている状況ではないかと思われるかと伺っています。

**【相原委員】**

産科婦人科医会では、1か月健診に関して課題となっているようなことがあれば教えていただきたいのですが。

**【青木委員】**

特にはないです。ほとんど全ての方がちゃんと1か月健診にかかっていると思います。今回の件は、それに対して補助金が出るとか出ないとか、そういう話ですよ。妊婦さん自体は今まで自費でしたが、ほとんど全員かかっています。

**【相原委員】**

産後のケアという意味では、当然、出産施設で見てもらっているとは思いますが、少し項目数が増えたりしているわけで、そういうところも含めて実施できるというのが理想な訳で、そこら辺を産婦人科の先生方もご承知であればいいと思っております。

**【青木委員】**

一応、基本的には、今のところ特に問題があるような話は聞いておりませんが、それ以上はわかりません。

**【相原委員】**

わかりました。ありがとうございます。

もう一点、5歳児健診についてですが、これは、神奈川県乳幼児健診（1か月児・5歳児）推進コンソーシアムを立ち上げて、私が代表として推進活動をしてきているわけですが、少しずつ実施市町村は増えてはきています。しかしながら、なかなかそれが進まない状況です。市町村によっていろいろと事情があるのは承知しているところですが、今後の課題としては、切れ目なく子ども達の発達を支援するという意味では、教育委員会のメンバーにも参加していただいて、流れを作っていく必要があると考えています。今までは、その辺が少し欠けている状況があると考えております。そこで、コンソーシアムにも教育委員会の代表の方に御参加いただき、市町村で教育委

員会関係の方をメンバーとしてシステムを作っていくというのが今後重要であると考えているところです。

#### 【和泉委員】

学童期・思春期の目標として、「プレコンセプションケア講座の参加者数」とあって、今現在、進行形だと思いますが、一応目標値として、令和7年度が7,500人で、その先から少し増やすという格好で、この辺の原動力のようなものは、どういう形で動いているのでしょうか。

#### 【神奈川県事務局】

プレコンセプションケアに係る講座の取組自体、令和6年度から新たに取組んでいるため、現状値はバーになっているもので、令和7年度から参加者を増やしていくのではなく、累計で表示させていただいているので、毎年7,500人規模の参加を継続していくような目標にしておりまして、これまでも保健福祉事務所なので、健康教育などをやっておりまして、そこにご出席いただく学校の生徒さんですとか、令和6年度から、企業の主に若い従業員の方向けなどに、プレコンセプションケアの出前講座などもやっておりまして、それらに出席の方々について、7,500人ぐらいの参加を毎年見込んでいるものでございます。

#### 【和泉委員】

ありがとうございます。実は、この思春期までのところでプレコンセプションケアを進めるというのは、むしろ非常に大事だと思っていて、今、こども家庭庁がプレコンセプションケアの指導者の養成講座だとか、それに使うためのスライドなどを作って配布しだしているんですね。

ところが、その軸足というのは、基本的には思春期以降、先ほどおっしゃったように、職場に出向いていってということで、実際には、もう思春期が終わって、これからもう成人期に入っていて、子どもをいつ作ってもいいというぐらいの世代、成人期のほうに行っていて、その前の時期にこういう講座をちゃんとやるのが一番いいんだろうけれども、実は難しいという懸念があります。

ということで、ぜひ学童期・思春期のところにこの目標を持ってきている意味を、こども家庭庁はどちらかというと軸足が後半にいつてしまっているような気がするのです、その辺をどうすり合わせてくるのかなというのが、実際にやっていく中で見えてくることだと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

#### 【小竹副委員長】

5歳児健診は新たな健診の一つであり、各地域での取組は年々増えてきていると伺っております。ただ、なかなか地域の医師の数や、小児科医の数、それを実行する上での人的資源、補助という意味での財政的支援、その両方のバランスが整わないと、十分前に進むだけのプランが立てられないのではないかと懸念している状態でございます。

#### 【柴田委員】

足柄上センターの柴田と申します。先日、保健福祉事務所の母子保健委員会がありまして、そこで、医師会から推薦をいただいているお医者さんの方から、うちの管内

は1市5町とわりかた小規模なところでございまして、「5歳児健診をそれぞれの自治体で行うのではなく、広域的にいくつか固まって行なっていただくのも検討してほしい」といったお話がありまして、少しそこの辺りも考えていければと思っております。

#### 【神奈川県事務局】

ありがとうございます。西湘地域や小規模自治体では、特に医師の確保というのが難しい課題かなと思っておりますけれども、足柄上地域でもいくつかの自治体はいろいろな方式で健診を始めているところで、それぞれのご事情もあるかと思っておりますので、じっくりと調整の上、できるところで、保健所もご相談にのっていただければと思います。よろしくお願いたします。

#### 【相原委員】

今の話は、西湘地区と足柄地区の5歳児健診がメインだと思いますが、共同で実施できないかという話かと思いますが、小児科医が少ない地域もありますので、小児科医だけで全ての5歳児健診を実施することは現実的ではありません。そこで、内科の先生でも、学校医とか保育園などの健診もやっていらっしゃる先生はおられると思いで、内科の先生方にも御協力いただきシステムを作っていくていただくのが良いと考えます。

少なくとも1歳半や3歳健診などは実施されているので、年齢が上がりますが、対象人数が増えるわけではないので、できる範囲内でやっていただくというのがやはり基本だと思います。

数地区をまとめてブロック化するという案も、先ほどのコンソーシアムの議論の中では出ています。しかし、そこはどちらかというスクリーニングで問題がありそうなお子さんをフォローアップするところがない状況があるのではないかということをお心配しており、そういう場合には、ブロックで各市町村に1か所ということではなくて、数か所の市町村で1か所とか、そういうような形でできればということで、今、少し検討はしているところです。

#### 【森委員】

切れ目ない支援というところで、今日のご説明にはなかったのですが、産後ケア事業に関して、自治体が違っていると、道一本隔てて住んでいる妊婦さんの産後ケアの受入れがあまりにも違うということが、助産師からよく聞かれることで、入所にしても、時間が違っていたり、そういったところをもう少し整理して統一していただくことはできないものかという意見を聞きます。その辺りはいかがでしょうか。

#### 【神奈川県事務局】

ありがとうございます。産後ケア事業につきまして、国もそれぞれの自治体の取組といったところを、これから見える化していくという取組があると承知しておりますので、県内でそれぞれの市町村の皆様がどのような形で取り組まれているのか、受けてくださっている事業者様のいろいろな課題など、そういったところを集約して確認をしながら、来年度取り組んでいきたいと思っております。

#### 【森委員】

よろしく願いいたします。

**【衛藤委員長】**

それでは、引き続きまして、神奈川県内の母子保険事業の状況について事務局から報告をお願いいたします。

**【神奈川県事務局】**

資料に基づき

- 流産・死産等で赤ちゃんを亡くした家族への支援
  - 基礎疾患のある妊産婦等への妊娠と薬に関する相談支援
  - リトルベビー地域交流会・相談支援
  - 新生児マススクリーニング検査に関する実証事業
  - 卵子凍結に関する取組
- を説明。

**【衛藤委員長】**

ただいま事務局より、ご報告いただきました5項目についてご意見やご質問があればお願いいたします。

**【相原委員】**

新生児マススクリーニング検査の実証実験について、SCID と SMA が県全体でできるようになったというのは非常に素晴らしいことですが、実はライソゾーム病というのも多くの都道府県ではすでに実施されている状況なのですが、神奈川県はまだそこは進んでないですが、それについてはどうでしょうか。早めにぜひ導入されることを小児科医としては期待するところです。

**【神奈川県健康増進課長】**

新生児マススクリーニング検査について、今はまず、国の実証事業に参加しているという中で、当面、3つ目の疾患に取り組むことは予定していません。まずは、SMA について早期の受診体制が必要ということで、できる取組から進めていきたいと考えております。

**【相原委員】**

患者数はライソゾーム病のほうが多いかもしれないので、そこもできるようになるとより望ましい、子どもたちにとってはいいことなので、ぜひ検討していただきたいと思います。

**【衛藤委員長】**

ありがとうございます。それでは検討のほうをよろしく願いいたします。

**【森委員】**

卵子凍結に関する取組のところで、資料の「事業目的」に「このような卵子凍結を行うことによる他の医療への影響も懸念される」と、この「他の医療への影響」というのがよくわからなかったので教えていただけるとありがたいです。

**【神奈川県事務局】**

お示しさせていただいた資料は、国のこども家庭庁が作成した資料になりまして、この卵子凍結に関する取組の説明資料はこの一枚のみで、今ご指摘いただいた「他の

医療への影響」というのが、具体的にどのようなことか示されていない状況でございます。

**【森委員】**

わかりました。わかったら教えていただけたらと思います。

**【和泉委員】**

卵子凍結に関する取組については、資料がこれ1枚しかなくて、あまり情報が出てこなくて、東京都とか一部、「暴走」というと怒られますが、やっているところがあって、おそらく「他の医療への影響」というのは、現在保険化されている体外受精とか、そういうところとの兼ね合いのことなのかなと思って読んでいましたが、私もどういう方向になっていくのかなと注視をしているところです。

**【福島委員】**

全体を通して、手短でしたが分かりやすく説明していただいてありがとうございます。説明のなかったいくつかのところも色々聞きたいと思うところはございましたが、先ほど森委員からご質問があられたように、私も産後ケアについては、今、国がこの3月までに全ての自治体で行うようにという方向性が出ている中で、各自自治体の差がかなりあるなということを感じておりましたので、神奈川県にはぜひ頑張ってもらえればと思います。

**【衛藤委員長】**

それでは、最後に、報告のあった項目以外の、資料にある報告内容を含めて、ご意見やご質問があればお願いします。

**【青木委員】**

横浜市では、(妊婦健診の)受診券化が本来であれば今年の4月から開始するという予定だったのが、ペンディングで未定になったのですが、これは、妊婦健診の「望ましい基準」の内容が変わるからとか、そういう理由でペンディングにさせてもらうということがメールに書いてあったのですが、他の市町村ではどうなっていますか。やはり延期なのでしょう。教えていただきたいのですが。

**【神奈川県健康増進課長】**

「望ましい基準」については、まだすぐ変わるという話自体は国に問い合わせてもわからなかったところがありまして、市町村によっては、4月から受診券化するところがいくつかありまして、あとは市町村の予算の状況にもよりますけれども、年度途中を含めて受診券化に向けて、令和8年度から始めるところがいくつか予定があるところです。

**【青木委員】**

横浜市に右にならえで、どこの市町村も延期というわけではないんですね。

**【神奈川県健康増進課長】**

はい、そう承知しております。

**【青木委員】**

わかりました。

**【衛藤委員長】**

どうもありがとうございました。それでは、事務局では、今後の取組の際の参考として、本日出たご意見を検討いただければと思います。

少し予定より早いですが、以上で議事を終了したいと思います。進行を事務局にお返しいたします。

**【神奈川県事務局】**

衛藤委員長、議事進行ありがとうございました。

本日はご多用の中、ご参加いただきありがとうございました。本日、委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえ、母子保健を取り巻く社会情勢に適切に対応し、母子保健行政を推進してまいりたいと考えております。

以上をもちまして、令和7年度神奈川県母子保健対策検討委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。